

「誇りのもてる生徒の育成」をめざして



宇部市立桃山中学校
校長 寺本 実春



マスコットキャラクター
「ハッピー桃太郎」

コミュニティ・スクールの仕組みを生かした小中一貫教育の推進

宇部市では、令和2年度から小中一貫教育がスタートしたが、本校は、平成29年度から3年間、モデル校となり取組を始めている。桃山中学校区（桃山中・新川小・小羽山小）の課題を「学力・規律」と捉え、それをキーワードに組織（学び・心みがき・絆づくりの三部会）を編成し、校務分掌とPTA組織を連動させる形で進めてきた。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響が広がる中、リモート形式で生徒会執行部と小学6年生が、中学校生活に関する質疑応答を行う交流会を実施した。この会を通して、小学生が安心して中学校に入学でき、新たな人間関係を築きながら、互いに切磋琢磨し成長していったことを期待している。



リモートによる小中交流会

「学び合い」を通じた学力向上

昨年度は、「主体的に学び合う生徒の育成」を研究主題とし、学力向上を図ることをめざした。生徒同士がグループで、学び合う学習活動を通して分からないことを聞き、それに対して相手が分かるように教えるという「学び合い」に特化した授業に取り組んだ結果、

9割の生徒がグループ学習を肯定的に捉え、分かることが増えたと実感していることから、「学び合い」を深めることが、基礎学力の定着や思考力の育成につながると考えられる。グループの中で関係を築き、積極的に学び合うことへの意識をより高めることで、学力向上を図りたいと考えている。

今後、「分かる喜び・できる楽しさ」を味わわせる授業実践に加え、研究や実践から得た成果や課題を基に、学び合う学習活動の工夫・改善に努め、授業の質の向上を図っていきたい。

生徒会と連携した生徒指導の充実

生徒の自治力を育成し、生徒会活動を充実させることで、生徒とともに取り組む生徒指導を実践する。

○あ・じ・み・そ・言葉

あいさつ、時間厳守、身だしなみ、掃除、言葉遣いを徹底し、楽しく有意義な学校生活を送る。

○自問清掃

無言で、自分と向き合いながら清掃することを通して、5つの心「我慢する心・気付く心・親切な心・正直な心・感謝する心」を身に付ける。

○ハッピーライフ運動

暴言・暴力をなくし、いじめを根絶する。達成できなかった日数を積算し、延ばすように取り組む。



「学び合い」のある授業

○ハッピー桃太郎運動



「ハッピー桃太郎」
あいさつ運動

地域行事でのボランティア活動や、学校内外の清掃、緑化活動を通して、自主的に動けるようになる。実践力の備わった人材の育成

若手教員の授業や生徒指導等の実践的な力を育成するため、

若手教員研修会を実施してきた。管理職をはじめ、ベテラン教員が分担して講師を務め、授業づくりやコミュニティ・スクール等のテーマで、演習や実習も取り入れた多様な形で行った。教員の負担も考えて日程を設定し、研修時間は放課後40分以内とした。若手教員からは、「普段の指導に直結する内容で、実習もあり楽しく研修することができた」と好評であった。同時に、講師を務めた教員も、自分の実績を振り返り再確認できたこともあり、双方にとってよい研修機会となった。また、若手教員の実態を知り、今後の指導方法を考えるうえでも、意義のある取組になったと実感している。今年度も、校内の人材を活用し、研修を通して生徒の成長に貢献する教員を育てていきたい。

桃山中の象徴「オープンステージ」

本校には、特色あるデザインの野外舞台「オープンステージ」がある。これは、熊本隆治初代校長の意向で、1950年（昭和25年）に完成した。築後、半世紀以上が経過したとき、痛みが目立ち始め撤去も検討されたが、「改修して残したい」という多くの賛同者から支援を受け再生された。



オープンステージ改修落成式典